

令和7年度「ちばっ子学びの变革」 推進事業研究状況報告書



柏市立富勢中学校

目次

- 1、学校について
- 2、研究主題
- 3、研究主題設定の理由
- 4、今年度の実践
- 5、成果や課題について
- 6、次年度の研究の方向性

目次

1、学校について

2、研究主題

3、研究主題設定の理由

4、今年度の実践

5、成果や課題について

6、次年度の研究の方向性

1、学校について

〈学校教育目標〉

「生きる力」のある生徒の育成
～確かな学力・豊かな心・健やかな体～

〈めざす生徒像〉

- | | |
|-------------------|----|
| (1) 確かな学力を身につけた生徒 | 知育 |
| (2) 優しく思いやりのある生徒 | 徳育 |
| (3) 心身ともに健体康心な生徒 | 体育 |

自他を尊び 支え合い 学び合い 高め合える生徒

- 本校は昭和22年5月10日、柏市立富勢小学校の教室を借用し生徒数203名4学級で創設された。
- 令和8年度は創立80年目にあたる。
- 現在の生徒数は482名、（1学年147名、2学年171名、3学年164名、）18学級になっている。

学校の前の富士見坂からは富士山がきれいに見える



目次

- 1、学校について
- 2、研究主題
- 3、研究主題設定の理由
- 4、今年度の実践
- 5、成果や課題について
- 6、次年度の研究の方向性

2、研究主題

知性にあふれ、目の前の問題を
解決するために、問いを立てて
学ぶ生徒の育成

目次

- 1、学校について
- 2、研究主題
- 3、研究主題設定の理由
- 4、今年度の実践
- 5、成果や課題について
- 6、次年度の研究の方向性

3、研究主題設定の理由

R6 全国学力学習状況調査（R6 4月：中学校3年生）の結果

全国平均よりも国語が下回っており、特に国語の「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる」、「資料を用いて自分の考えがわかりやすく伝わるように話すことができる」や「話し合いの話題や展開を捉えながら他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめることができる」等に課題があった。

研究主題設定の理由 続き

- ・ R6 柏市学力・学習状況調査（R6 12 月：中学校 1～3 年生）では、「相手の立場に立って考える力 自分が相手の立場だったら、どう思うかと想像することができる。」「伝える力 友達に自分の考え・意見を説明することができる」 「相談する力 悩んでいることや心配していることを、先生、友達、保護者などに相談することができる。」 「主体性 課題に自ら取り組むことができる。」等の項目に課題が見られた。

これらの課題を踏まえた上で

他者との関わり合いの中で話の内容を捉えたり、自分の考えをまとめ、深める力、自分の考えを相手に伝える力、自ら課題を立ててそれに取り組む力などを伸ばす指導を考えるに至った。そして、知性にあふれ、目の前の問題を解決するために、問いを立てて学ぶ生徒の育成という研究主題を立て、それらの力を伸ばすための方法としてポスターセッションという手法を用いて、国語科を中心に、全教科・領域横断的に取り組むこととなった。

毎回の教材、単元でポスターセッションができるわけではないので・・・

国語を中心に
授業毎の振り返りの実施。

・課題の提示→個人で考える時間→3～4人の小グループでの共有、協働、ペア学習→(全体)個人に戻る(振り返り含め)→単元の振り返り

という形の授業の形態を基本とすることとした。

目次

- 1、学校について
- 2、研究主題
- 3、研究主題設定の理由
- 4、今年度の実践
- 5、成果や課題について
- 6、次年度の研究の方向性

4、今年度の実践

検証方法について

国語科を筆頭に、全学年において全教科・領域横断的に取り組む

映像作成・ポスターセッション

○調べたことを起・承・転・結（目的・背景・方法・結果・考察・結論）でまとめ、事前に映像で撮ったものを土台にして、質疑応答で学びを深める。

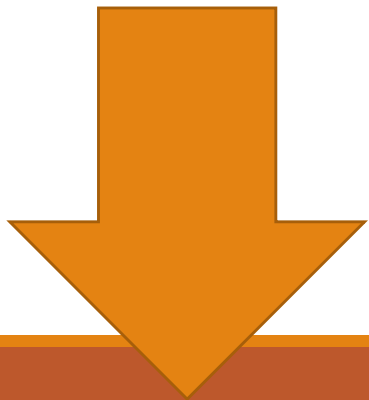
○ポスターを使って行う発表手段で、自分が学び研究した結果や内容を発表者が図やグラフなどを用いて1枚のポスターにまとめ、参加者にプレゼン及び質疑応答する。

○複数の発表者が各自スペースに待機し、発表テーマに興味を持った参加者がスペースに集まった時点で発表する。

○参加者は、疑問点等をその都度発表者に質問し、テーマによっては質疑応答が活発に繰り広げられる「ライブ感」のある発表方法。

検証方法について 続き

- 発表者と参加者の距離が近いいため、質疑応答がしやすい。聞き手は少人数かつテーマに興味のある人のため、深く狭く発表ができる。
- 聞き手に合わせて興味のあるポイントに絞って説明することで、活発にディスカッションが可能。
- 参加者は発表者の話を聞きテーマに関する理解を深め、新たな考えを取り入れることができる。発表者は参加者の質問へ回答することで、さらなる学びを得られる。

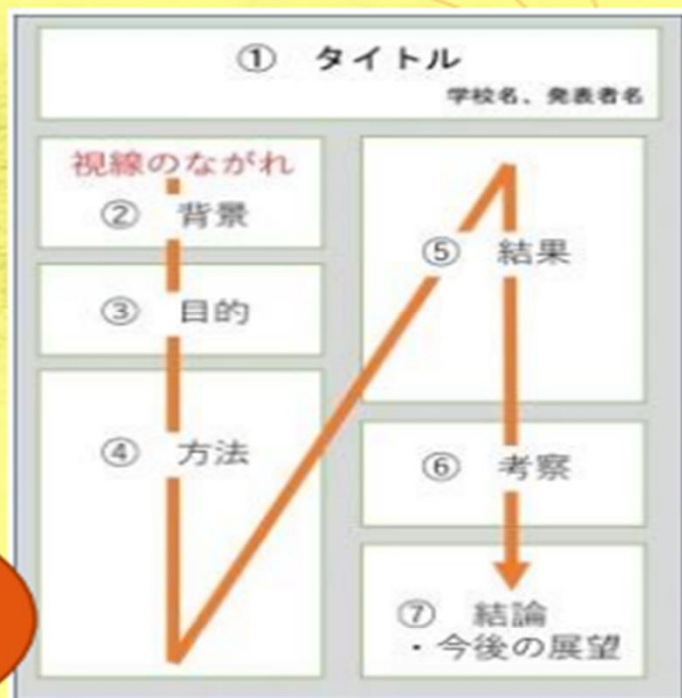
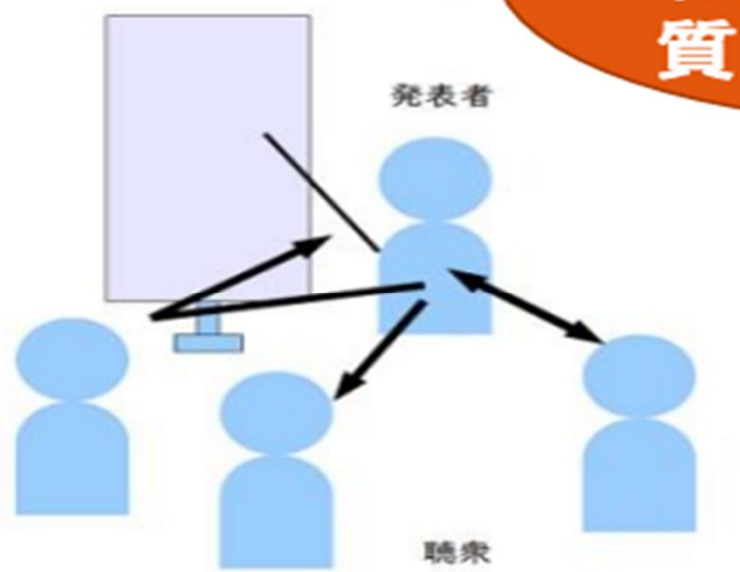


これらの内容をまとめると

一方通行的な発表して終わり・・・からの脱却



自分の言葉で
わかりやすく
質問に対応可



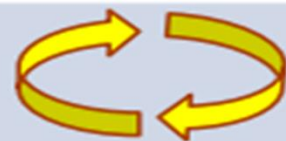
主体的な
学び

見通し
振り返り



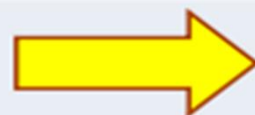
対話的な
学び

相互作用
インタラク
ション



深い学び

学習プロセス



現状分析・取り組み・成果課題

1 / 3

1 / 3

1 / 3

内容	発表
主体性	視線
テーマ性	立ち姿
論理性	声量・トーン
専門性	テンポ
創造性	身振り手振り
発展性	聴衆との距離
その他	その他

質疑応答の充実から深い学び

- やりとり
- 深ぼり・広がり
- 学び合い
- 共感
- 親密
- 見通し



△ 「質問ありませんか？」

○ 「質問お願いします！」

また、千葉県の「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムに、本検証を当てはめていくと

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム

質疑応答の中
から調べ深め
る



テーマ
を持つ

調べて考える
発表の工夫

※千葉県教育委員会「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムより画像を引用

という形で実践を行うことが可能であると仮説を立てた。

生徒の様子や授業の実践

国語科

個別最適・協働的な学び

<1年生>

SDGsから一つの題材を選び、図書を活用しながらオンラインデザインツールでポスターを作製し、班員にプレ発表を行い、班員からのアドバイスや質疑応答を受けて発表がより深まるように実践した。

<2年生>

孔子の言葉 人生における座右の銘となる言葉を選び、オンラインデザインツールでポスターを作製してポスターセッションを行った。質疑応答では、孔子の言葉に関するものだけでなく、発表についても意見を述べさせた。発表の仕方への深まり、知識としての深まりが見られた。

<3年生>

風景と心情（漢詩）お気に入りの漢詩を1つ決め、共同編集ツールでまとめてポスターセッションを行った。個で調べ、グループで活動、発表を行うことで深められるように実践を行った。

※全教科、全ての授業は掲載できないので、代表的なものだけを載せさせていただきます。

この質疑応答からまた、自分の発表で足りなかったことや、質問答えられなかったことを調べ直すことで深まりが見られた。



生徒の様子や授業の実践

他の意見を認め、受け入れる
自己肯定感の向上、自信を持って発言
できる姿
臨機応変に対応ができる姿が見られた。

1 学年総合

個別最適・協働的な学び

7月～12月の上野校外学習の活動を通して実践を行った。事前学習では、生徒の興味・関心を元に一人ひとりが上野公園内の研修先と学習テーマを選択した。そのテーマを達成するために、どこでどんなことを学ぶかを記した事業計画書を作成し、プレゼンテーションを行った。(ICTも活用)実際にプレゼンテーションを行ったあと、聞き手からのフィードバックを実施した。

事後学習では、班ごとにテーマを選択し、コラボノートを用いてポスターを作製し、予想される質問内容の回答の作成も協働で行った。同学年の他クラスへのポスターセッションを実施した。



2学年総合

個別最適・協働的な学び

キャリアプランニング（人生設計）を考える中で、自分らしい生き方を選択するために、職業選択から職業調べを実施することで、生徒が自分にベクトルを向けて、自分の人生を考える良いきっかけとなった。初めの授業の中で、「働く意義（なぜ人間は働くのか）」を考えさせるために、3つの職業に関する動画を視聴した。職業を調べる前の段階として、やりがいや大変さなどといった、働く意義を中学生なりに理解をし、その上で本当に調べていきたい職業を選択することを意識させた。グループ発表（違うクラスの生徒に発表）を2時間実施する前に、リハーサルとして自分のクラスの自分の班の中で発表練習をし、発表内容の中で「良かった点」と「アドバイス」をお互いにした上で、本番のグループ発表に向けてより良い準備をすることができた。生徒同士の普段の授業からの教え合い活動などが役立った瞬間でもあった。

「質問お願いします。」からこのように積極的に挙手があり質疑応答が行われる。



自ら考え、工夫を凝らし、ポスターセッションを行うことでコミュニケーション力や表現力を養うことができた。また、質疑応答をすることで、お互いの知識が深まった。



ここで紹介したものの以外にも
ポスターセッションや普段意識して取り組んでいる
個別最適、協働的な学びについての報告

美術・・・作品の鑑賞の授業で「一人ひとりが好きな美術」選択しポスターセッションを行った。

社会・・・教科書の内容を4つ～8つに区切り、3～4人のグループで担当を決める。1人10分で自分が調べた内容を伝える。自分で調べたことを人に教えることで知識の定着が上がり、決められた時間で話す力が身についてきた。

理科・・・個人で考える時間と、グループで共有する時間の作成。

体育・・・OPPA論の入った振り返りシートで授業実践。自己の学びを調整した。

数学・・・個別学習、班学習の実施

英語・・・長文での協働学習

日々の取り組み、授業の様子



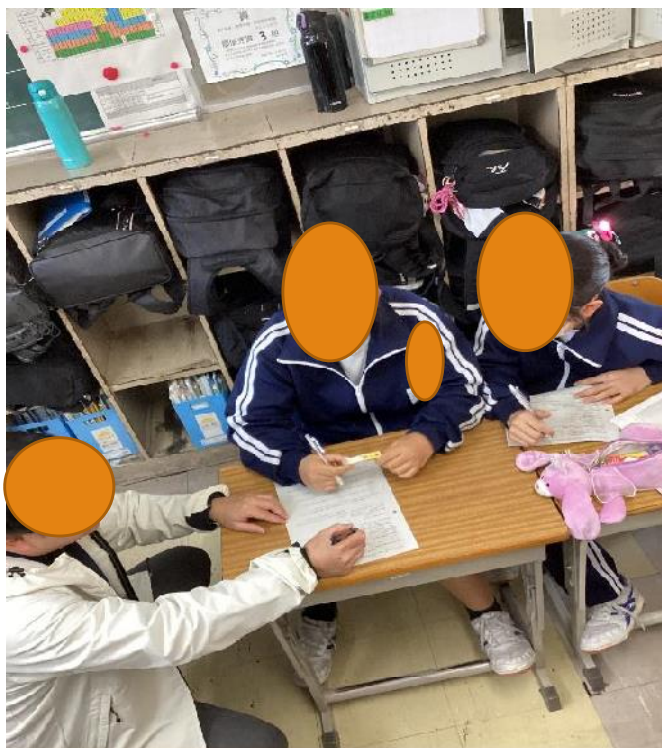
3年生数学
個別で先生に
聞く時間と
協働の時間

日々の取り組み、授業の様子



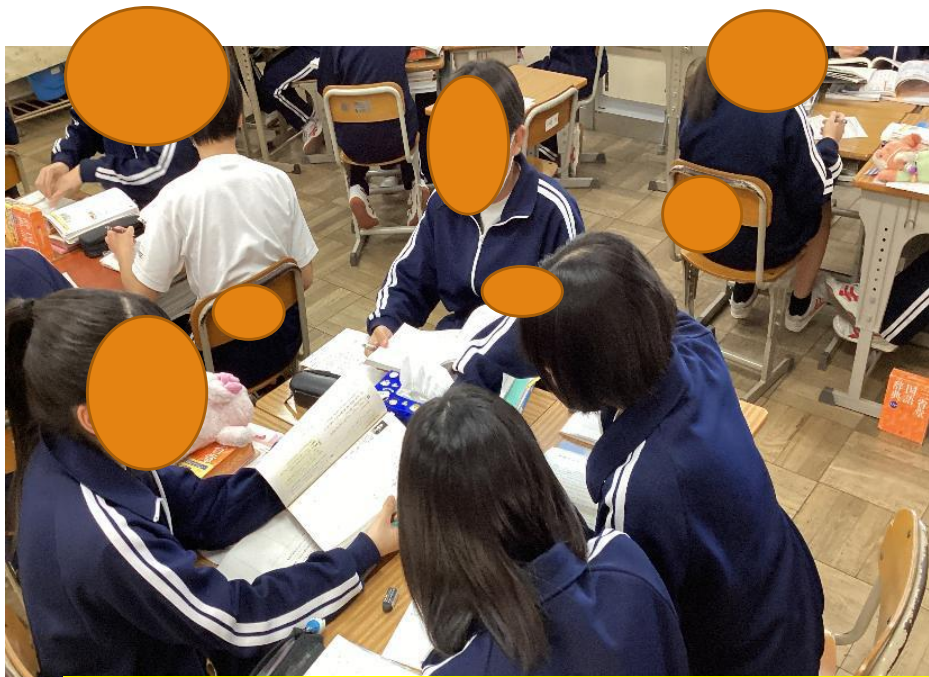
2年生社会
それぞれが先生役
となり教え合う協
働の時間

日々の取り組み、授業の様子



1年生英語
小グループ、個人
で取り組む様子

日々の取り組み、授業の様子

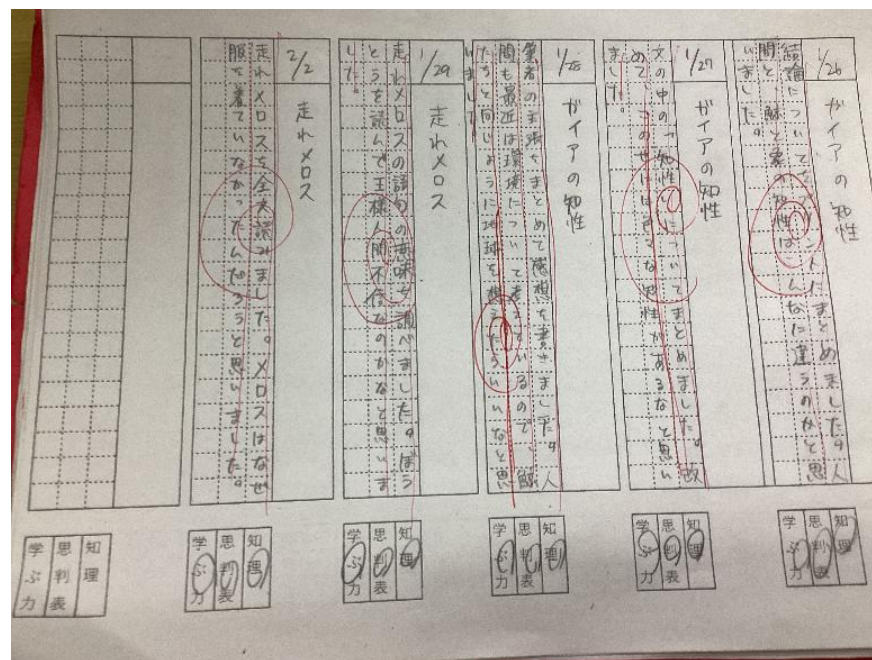
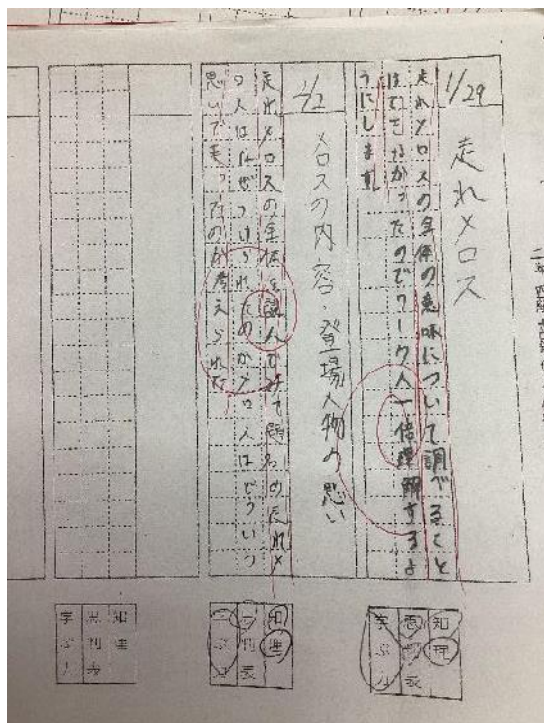


加配教員については、授業を行っていると共に、毎週国語科部会を実施し、その中でよりよいポスターセッションの実践や授業づくりについて共に考え実践している。グループ活動の際や、ポスターセッションの際のT2としても活動をする予定。

2年生国語
小グループで
考える様子

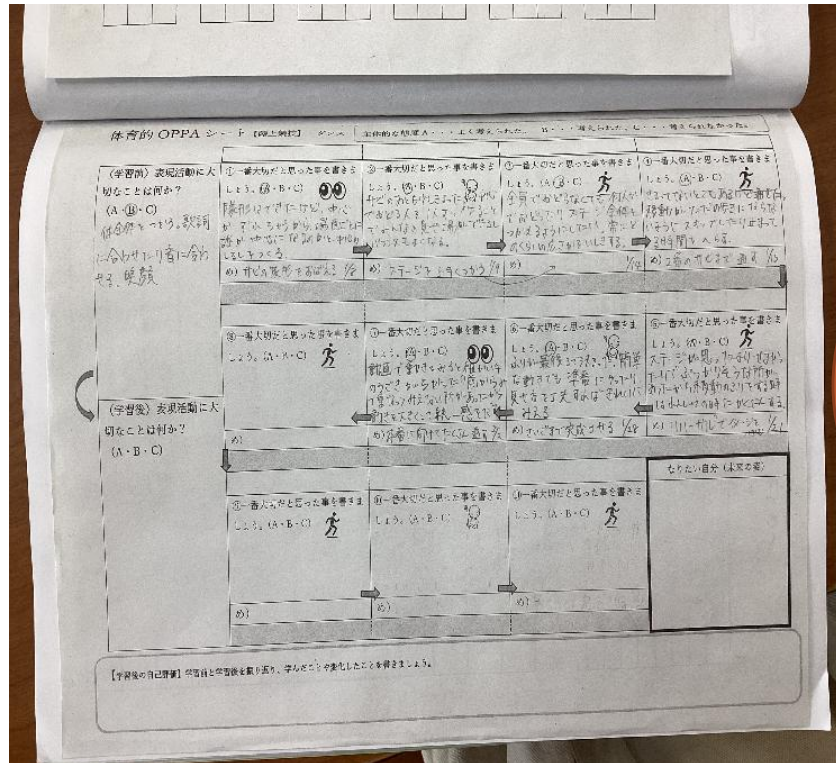
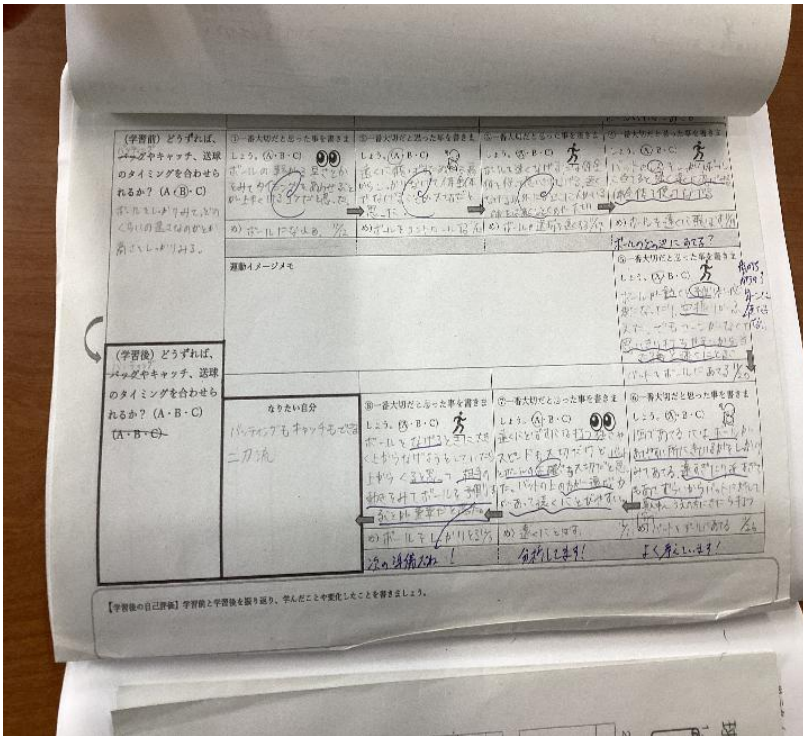
加配教員も
グループの
机間指導を
している。

振り返りについて



国語振り返り
 毎授業で振り返りを実施
 知識理解、思考判断表現、
 学びに向かう姿勢のどの
 力が身に着いたかも○を
 つける

振り返りについて



体育振り返り
OPPA理論に基づき、
自己の学びを調整

目次

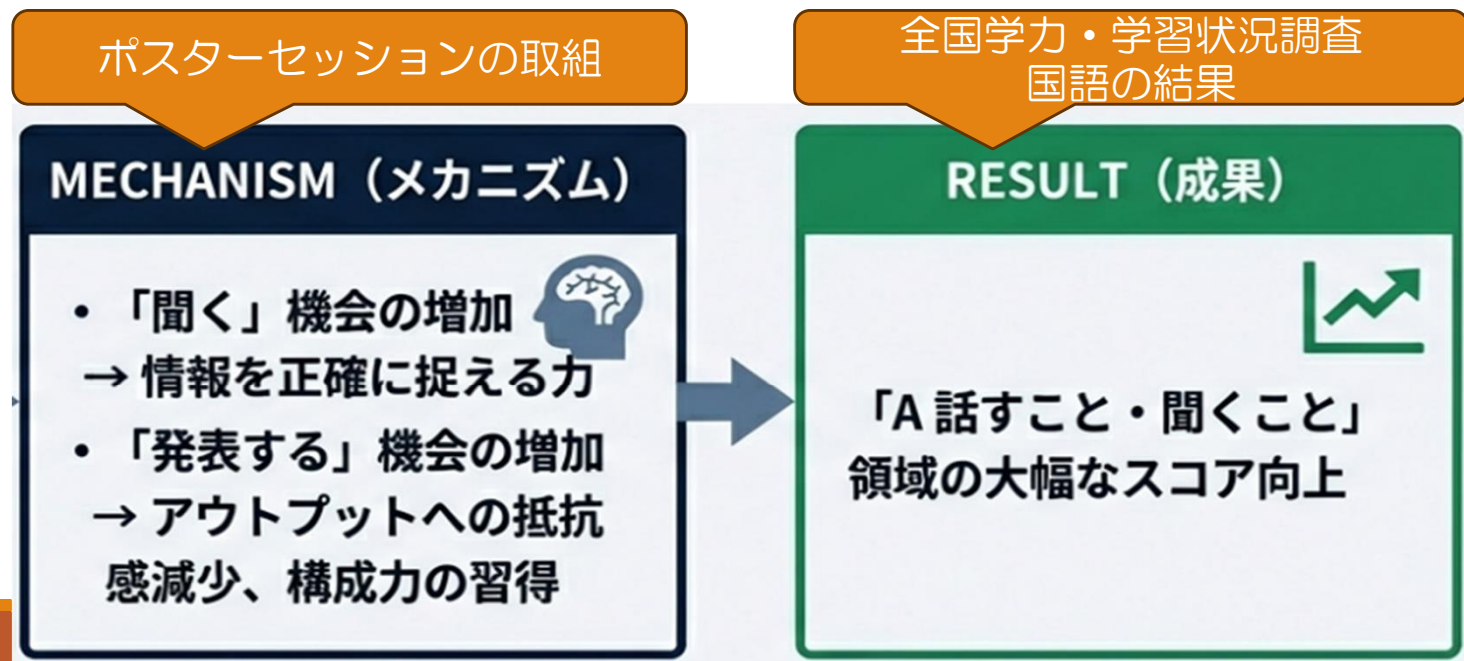
- 1、学校について
- 2、研究主題
- 3、研究主題設定の理由
- 4、今年度の実践
- 5、成果や課題について
- 6、次年度の研究の方向性

5、成果や課題

成果について

今年度1年間ポスターセッションという形で実践を行ってきたが、今年度の柏市の調査ではすでに課題として挙げていた項目である「相手の立場に立って考える力 自分が相手の立場だったら、どう思うかと想像することができる。」「伝える力 友達に自分の考え・意見を説明することができる」「相談する力 悩んでいることや心配していることを、先生、友達、保護者などに相談することができる。」「主体性 課題に自ら取り組むことができる。」という項目において全てが向上するという結果が出た。黄色線部は大きく向上した。これもポスターセッションという形を全学年、全教科横断的に取り組んできた大きな成果だと言える。

また、全国学力・学習状況調査では、国語について「話すこと、聞くこと」に大きく課題があったが、昨年度の全国平均正答率と比較すると、上昇した。ポスターセッションを行ったことによる効果が出たと考えられる。



成果について 続き

教員の意見では

- ・コミュニケーション能力や表現力を養うことができた。
 - ・お互いの知識を深めることができた。
 - ・自信をもって発言、発表する生徒や機会が増えた。
 - ・時間内で話しをする力、聞いている人をひきつける話ができる。
 - ・協力して活動することでクラスや班での仲の深まりを感じた。
- などがあげられた。

課題について

- ・授業時間の確保、年間を通じてのカリキュラムの見通し。
- ・全体課題の解決に向けて個人課題を設定する際、見通しを持つことに苦手意識がある生徒や学習に前向きに取り組めない生徒にとっては苦しい場面がある。
- ・発表後の自己の振り返りの時間の確保。
- ・話すことが苦手など配慮が必要な生徒への手立て。

課題について 続き

- ・ポスターを作ることにかかる時間よりも、伝え方を考える時間を多くとれるようにする。
- ・質問事項の方向性を明確にしておくと言葉の応答も深まりやすい。
- ・実践が難しい教科もある。
- ・聞き手側の指導や力の育成。
- ・「質問お願いします」と言うためには、発表者の自信が重要であり、ポスター、発表練習等の時間の確保。

目次

- 1、学校について
- 2、研究主題
- 3、研究主題設定の理由
- 4、今年度の実践
- 5、成果や課題について
- 6、次年度の研究の方向性

6、次年度の研究の方向性

今年度の実践を通して、大きな手応えを感じているため、引き続きポスターセッションという形を全学年・全教科・教科横断的に取り組む方向としていきたいと考えている。

反省を踏まえて、今年度中から各教科で次年度に向けて、どの授業でポスターセッションという形を取れるかを考えていきたい。また、よりよい発表の方法などを各教科主任を中心に全職員が考え、実践していきたい。全国学力・学習状況調査での、「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる」、「資料を用いて自分の考えがわかりやすく伝わるように話すことができる」や「話し合いの話題や展開を捉えながら他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめることができる」などの項目についても向上することを期待しながら実践をしていく。また、最終的には集会計画なども生徒自ら考え、実施し、その中で生徒のポスターセッションでの発表の場なども設けていきたいと考えている。生徒だけではなく、保護者や地域の方に見ていただく機会も設けたい。今後の人生でも生きる力として身に着けさせていきたい。